

化石燃料に頼らず、森林資源をいかす取り組みとして公民連携で設立された
バイオマス事業の会社「あわら三国もりもりバイオマス株式会社」のインタビュー記事を作成しました。

森、風、太陽光。自然エネルギーをうまく使っている、というあわら賛沢。

2018.02.10

ツイート いいね!



あわら市の丘陵地帯をクルマで走っているとかならず車窓に映るのが、風力発電の風車。これにはちゃんと愛称もあって、「あわら夢ぐるま」と呼ばれています。あわら夢ぐるまの白くて大きな羽根が日本海からの海風にゆっくりゆっくりと回っている景色は、その周辺の緑豊かな小高い丘の稜線と相まって、あわらら



――坂井森林組合さんは、どんな想いでこのもりもりバイオマスの取り組みに参画されたのでしょうか？

西川さん：ひとことで言えば「地域の人に山へ目を向けてほしい」ということです。もりもりバイオマスによるエネルギーの地産地消が成功すれば、「山も捨てたもんじゃないなあ」と地域の人に感じてもらえる。そう思いました。山の森林整備には大きな税金が投入されているんです。また、今の山があるのはわれわれの祖先がしっかり山を整えてくれたからとも言える。にもかかわらず今の人はあまりにも山や森と無関係・無関心です。もちろん、山から出た不要材を使